

活動状況等報告①

専門ワーキング報告および、水鳥プロジェクトの活動報告



斐伊川水系 水鳥プロジェクト

斐伊川水系 生態系ネットワークによる大型水鳥類と共に生きる流域づくり検討協議会

1. ワーキング開催概要

前回の協議会(2022年5月12日)以降に開催された専門ワーキングは、以下の通り。

水辺環境ワーキング・鳥類ワーキング



(東部)



(西部)

日時	(東部) 2022年12月15日(木) 19:00~21:00 (西部) 2022年12月14日(水) 14:00~16:00
場所	(東部) 米子水鳥公園 会議室(オンライン併用) (西部) 国土交通省 出雲河川事務所 会議室(オンライン併用)
主な議題	自然再生による斐伊川水系生態系ネットワーク形成に向けた構想(素案)

農地環境ワーキング



日時	2023年4月20日(木) 14:00~16:00
場所	国土交通省 出雲河川事務所 大会議室(オンライン併用)
主な議題	①斐伊川水系生態系ネットワーク全体構想と農地環境ワーキングの検討経緯 ②斐伊川水系の大型水鳥の生息における問題点 ③田んぼダムを活用した、大型水鳥類がすみやすい水田環境づくりの可能性について ④農地環境改善の担い手確保に向けた情報発信について

地域振興ワーキング



日時	2022年12月16日(金) 14:00~15:50
場所	国土交通省 出雲河川事務所 大会議室(オンライン併用)
主な議題	①愛称・シンボルマークの公開・利用について ②大型水鳥類を活用した観光振興について

環境学習ワーキング



日時	2023年4月14日(金) 14:00~16:00
場所	国土交通省 出雲河川事務所 大会議室(オンライン併用)
主な議題	①環境学習ワーキングと全体構想の短期目標について ②ウェブサイトを活用した環境学習プログラムの周知について

2. 水辺環境・鳥類(合同)ワーキングの開催

(1) 概要

東部(中海周辺エリア)、西部(宍道湖・斐伊川・神戸川周辺エリア)に分け、流域全体の生息環境づくりの方向性等について、議論を行った。

日時	(東部) 2022年12月15日(木) 19:00~21:00 (西部) 2022年12月14日(水) 14:00~16:00
場所	(東部) 米子水鳥公園 会議室(オンライン併用) (西部) 国土交通省 出雲河川事務所 会議室(オンライン併用)
参加メンバー (東部)	(公財)中海水鳥国際交流基金財団 米子水鳥公園 館長 神谷 要
	(公財)中海水鳥国際交流基金財団 米子水鳥公園 統括指導員 桐原 佳介
	NPO法人日本野鳥の会鳥取県支部 理事 津森 宏
	NPO法人日本野鳥の会鳥取県支部 支部長 土居 克夫
	(公財)中海水鳥国際交流基金財団 米子水鳥公園 指導員 三原 菜美
(西部)	(公財)しまね自然と環境財団 島根県立三瓶自然館サヒメル 課長 井上 雅仁
	鳥取大学 准教授 梶川 勇樹
	日本野鳥の会 島根県支部 北脇 努
	(公財)日本野鳥の会 副会長 佐藤 仁志
	日本野鳥の会 島根県支部 野津 登美子
	日本野鳥の会 島根県支部 副支部長 秦 智秋
	(公財)ホシザキグリーン財団 事業課 ホシザキ野生生物研究所 調査研究係長 林 成多
	(公財)しまね自然と環境財団 島根県立三瓶自然館サヒメル 学芸課企画幹 星野 由美子
	(公財)ホシザキグリーン財団 ホシザキ野生生物研究所 所長 森 茂晃
その他	協議会参加自治体の関係部署
	国土交通省 出雲河川事務所 (公財)日本生態系協会
主な議題	①自然再生による斐伊川水系 生態系ネットワーク形成に向けた構想(素案)

※役職はワーキング開催日時点

(2) 主な議事内容

◆自然再生による斐伊川水系 生態系ネットワーク形成に向けた構想(素案)について

- これまでのワーキングで議論してきた大型水鳥類の生息拠点候補地と国管理河川における自然再生のイメージ等を踏まえ、流域全体でどのような生息環境を目指していくべきか、将来像図(素案)として提示。
- 流域全体の生息環境づくりに向けた取り組みの方向性について、東部、西部に分けて意見交換を行った。

◇ワーキングメンバーからの意見等

- 東部は十分なねぐら環境はあるものの、ガン類、ハクチョウ類の採食地、採食資源の少なさがネックになっていると考えている。採食環境の保全・拡充が大切。(東部)
- 中海については、例えば米子湾に浅場を整備しても、大型水鳥が定着するとは考えづらい。(東部)
- ただし、ハクチョウ類が好む水草が繁茂する環境が増えることは意義のあることと考える。(東部)
- 現在残されている、または守られている良好な自然環境を守るというスタンスが重要。(東部)
- 宍道湖に規模が小さい浅場(沖合幅30m程度)を整備しても、簡単に大型水鳥が住み着くようになるとは思えない。(西部)
- 斐伊川河口の出島地区は、斐伊川から供給された土砂が自然に堆積し、浅場が広がるように誘導する方法が考えられないか。(西部)
- 斐伊川河口には世界的に貴重なヘラサギ類が飛来している。これまでの大型水鳥類5種群だけではなく、この種もくらせる自然環境を保全・再生することをも念頭に置いておいた方が良い。(西部)
- 近年、水鳥による農作物の食害を懸念する声を多く聞くようになった。(西部)



ワーキングでの意見等を踏まえ、大型水鳥類の生息環境づくりに向けた流域の取り組みの将来像(素案)を作成。(→議事(3)で提案)

今後の方向性

河川・湖沼において自然再生を進めていく箇所、整備内容の基本的な検討
令和5年度から国管理河川の自然再生事業に着手。大型水鳥類が現状で飛来している環境等を調査・整理し、事業実施箇所の選定、整備内容の基本的な検討を進める(どこにどのような環境を創出していくのか)。

3. 農地環境ワーキングの開催

生態系ネットワーク
形成

地域ブランド確立

地方創生

(1) 概要

2023年4月20日(木)に、大型水鳥類がすみやすい水田環境づくり及び、農地の担い手確保に向けた情報発信に関して、意見交換を行った。

日時	2023年4月20日(木) 14:00~16:00		
場所	国土交通省 出雲河川事務所 大会議室(オンライン併用)		
参加 メンバー	J Aしまね出雲地区本部 営農部 総合指導課 課長	阿式 秀典	
	J Aしまね出雲地区本部 営農部 営農企画課 課長	山根 康太	
	J Aしまね斐川地区本部 営農部 営農企画課 課長	新宮 教秀	
	J Aしまね斐川地区本部 営農部 営農第一課	青木 雅至	
	農事組合法人野尻の郷 代表理事	飯島 昭人	
	コウノトリの会春殖 事務局長	岩田 守弘	
	大東大月谷集落協定		
	コウノトリの会春殖	鳥谷 秀和	
	(公財)ふるさと島根定住財団 地域活動支援課 主任主事	山本 亮介	
	鳥取県農林水産部 農業振興監 農地・水保全課 課長	田中 彰	
	鳥取県農林水産部 農業振興監 農地・水保全課 農林技師	石田 敬	
	島根県農林水産部 産地支援課 有機係 課長補佐	石原 真紀子	
	出雲市農林水産部 農業振興課 主査	陰山 真樹	
出雲市農林水産部 農業振興課 副主任	大瀧 柚生		
雲南市農林振興部 農業総務課 課長	宮川 勝		
その他	協議会参加自治体の関係部署		
	国土交通省 出雲河川事務所		
	(公財)日本生態系協会		
主な議題	① 斐伊川水系生態系ネットワーク全体構想と農地環境ワーキングの検討経緯 ② 斐伊川水系の大型水鳥の生息における問題点 ③ 田んぼダムを活用した、大型水鳥類がすみやすい水田環境づくりの可能性について ④ 農地環境改善の担い手確保に向けた情報発信について		

※役職はワーキング開催時点のもの

(2) 主な議事内容

1. 田んぼダムを活用した、大型水鳥類がすみやすい水田環境づくりの可能性について

- ・鳥取県における田んぼダムモデルほ場実証研修および、農家への普及啓発に関する取組事例を紹介した。
- ・田んぼダムを活用した大型水鳥類がすみやすい水田環境づくりに向けた取組の提案を行った。
- ・流域治水と大型水鳥類の生息環境づくりの両側面から、斐伊川流域でのモデル地区等の取組可能性について意見交換を行った。

◇ワーキングメンバーからの意見等

- ・田んぼダム自体はそれほど難しい取組ではない
- ・冬水田んぼは、水供給の問題や、春先の機械の取扱いが困難になることから導入は難しいのではないか
- ・斐伊川下流域では、田んぼダム活用時に必要となる畦畔の堅牢化につながる除草剤の抑制などの管理の方が現実的ではないか

2. 農地環境改善の担い手確保に向けた情報発信について

- ・(公財)ふるさと島根定住財団が運営する「しまね関係人口マッチング・交流サイト しまっち!」の活用による情報発信の可能性と、協力営農団体への具体的導入について、意見交換を行った。

◇ワーキングメンバーからの意見等

- ・活動の情報発信からぜひ始めていきたい。
- ・情報発信にあたっては、行政からもぜひ協力と応援をいただきたい。
- ・受入側の体制を考慮した情報発信規模の設定が重要。

(3) 農地環境に関連した活動

◇出雲市およびJAへのヒアリング

- ・ワーキングでの意見交換を受け、斐伊川下流域の水田地帯を対象として営農状況の現状についてJAおよび出雲市にヒアリングを行った。
- ・ブロックローテーションによる2年3作が主流となっており、営農組合ごとに取組が異なることが明らかになった。

	1年目												2年目												3年目											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
単水作	→ 水稲												→ 水稲準備 水稲												→ 水稲準備 水稲											
2年3作	→ 水稲												→ 大麦 大豆												→ 水稲準備 水稲 大麦											
	→ 水稲												→ 大麦 ハトムギ												→ 水稲準備 水稲 大麦											
	→ 水稲												→ 大麦 そば												→ 水稲準備 水稲 大麦											

◇「しまっち！」の活用による情報発信

- ・サイトへの掲載に向けて「コウノトリの会春殖（雲南市）」「ふるさと島根定住財団」と協議を行った。
- 2023年6月より「しまっち！」サイトにおいて「コウノトリの会春殖」のコミュニティページとプログラムページの掲載が開始された。

コミュニティ

<https://shi-match.jp/pc/210/>



プログラム

<https://shi-match.jp/pc/211/>



◇協力・連携団体によるビオトープ整備

・斐伊川流域の3か所で協力・連携団体によるビオトープ整備が行われた。

（（公財）日本生態系協会がサントリー世界愛鳥基金を活用して取り組んでいる「コウノトリ定着・広域ネットワーク推進プロジェクト」の中で実施）

土水路ビオトープ

土水路の整備は、加湿な田面の排水を促進し営農上のメリットがあるだけでなく、冬期でも水が残ることで水生生物の退避場所となり、コウノトリやトキの餌植物が増えるという効果が期待できる。

野尻の郷 土水路ビオトープ

設置者：農事組合法人野尻の郷・NPO法人いずも朱鷺21



大月谷 土水路ビオトープ

設置者：コウノトリの会春殖



休耕田ビオトープ

休耕田の4辺を掘削し深みを作り、湛水を行ったビオトープ。

岩倉ビオトープ（稗原地区）

設置者：みどり営農組合・NPO法人いずも朱鷺21



・設置看板には「斐伊川水系 水鳥プロジェクト」のシンボルマークも掲載。看板設置の様子は新聞記事にも取り上げられた。

日本農業新聞 2023年3月31日掲載

「この地域からトキ放鳥したい 特栽米を生産する島根・出雲市の法人など 保全活動看板を設置」

山陰中央新報 2023年3月31日掲載

「水鳥の餌場大切に」

島根日日新聞 2023年4月2日掲載

「コウノトリの餌場大切に ビオトープに看板設置 雲南」

日本農業新聞 2023年4月9日掲載

取材ノート「『トキ放鳥事業、本州への拡大』 共生支える機運高めよう」

今後の方向性

流域治水と生態系ネットワークの形成に向けた取組

大型水鳥の採食地として重要な位置を占める斐伊川下流域の水田地帯を対象に、JAや市と連携し、流域治水と生態系ネットワークの形成を目的としたモデル事業の推進に向けた検討を進める。

担い手確保に向けた情報発信

水鳥プロジェクトのWEBサイトやFacebookなどでの広報支援を進めるほか、「コウノトリの会春殖」の「しまっち！」活用状況を見ながら、他団体での活用の可能性について検討を進める。

4. 地域振興ワーキングの開催

(1) 概要

2022年12月16日(金)に、愛称・シンボルマークの公開と今後の利用および、大型水鳥類を活用した観光振興について意見交換を行った。

日時	2022年12月16日(金) 14:00~15:50		
場所	国土交通省 出雲河川事務所 大会議室(オンライン併用)		
参加メンバー	エピオネイチャーガイドオフィス 代表	池田 友紀	
	有限会社 いやタクシー・東出雲観光	宇田川 真毅	
	道の駅 湯の川 駅長	金築 豊	
	(一社) 出雲観光協会 事務局次長	斉藤 謙一	
	(一社) 出雲観光協会 会長 神門通り甦りの会 代表	田邊 達也	
	(株) 山陰中央新報社 編集局報道部 ニュースセンター委員	舟越 幹洋	
	中海・宍道湖・大山圏域観光局 代表理事	矢野 正紀	
その他	協議会参加自治体の関係部署		
	国土交通省 出雲河川事務所 (公財)日本生態系協会		
主な議題	①愛称・シンボルマークの公開・利用について		
	②大型水鳥類を活用した観光振興について		

※役職はワーキング開催時点のもの

(2) 主な議事内容

1. 愛称・シンボルマークの公開・利用について

- ・第9回協議会で承認された愛称・シンボルマークの公開(2022年10月WEBサイトにて公開)および、活用事例について報告を行った。
- ・愛称・シンボルマークの活用をはじめとした、協議会の取組の普及啓発・広報の展開について意見交換を行った。

◇ワーキングメンバーからの意見等

- ・缶バッジと併せて配布できるリーフレットなどがあると紹介しやすい。
- ・PR強化期間などがあれば、観光業者の間でも拡げやすいのではないかな。
- ・あらためて観光協会の会員への周知をしてはどうか。
- ・YouTubeなどを活用したPR動画があると良いのではないかな。
- ・水鳥が好きな人への記念になるようなものが用意できると良いのではないかな。
- ・ロータリークラブなどに、話題提供の場について働きかけをしてはどうか。

2. 大型水鳥類を活用した観光振興について

- ・既存ツアーを活用した普及啓発および、斐伊川河口部、中海エリアにおける観光振興の取組について報告を行い、意見交換を行った。

◇ワーキングメンバーからの意見等

- ・教育的要素を含むコンテンツにすれば集客の可能性が広がるのではないかな。
- ・「自然や生きものに興味のある人」をターゲットに設定したツアーを用意してもよいのではないかな。
- ・農業者など、地元の理解があると心強い。
- ・ツアー運営に係る経費の問題については、補助金の活用も検討してはどうか。

(3) 地域振興に関連した活動

◇愛称・シンボルマークの公開

■ 「使用マニュアル」の作成

第9回協議会でのシンボルマーク決定に伴い、具体的な使用禁止例等を含む「使用マニュアル」を新たに作成した。併せて「使用に関する要領」の中に「使用マニュアル」を遵守することを定めた文言を追加した。

■ 公開に使用したWEBサイト (<https://sites.google.com/view/hiikawa-econet>)

2021年7月 「斐伊川ECONET」WEBサイト設立。愛称・シンボルマークの一般投票用ポータルサイトとしても活用。

2022年10月 サイト名称を愛称「斐伊川水系 水鳥プロジェクト」に変更すると共に、同サイト内で愛称・シンボルマークを公開。

■ WEBサイト「愛称・シンボルマーク」ページ画面（抜粋）



斐伊川水系水鳥プロジェクト

愛称とシンボルマークが決定しました

2022年冬に開催された一般投票では783名の皆さまから投票をいただき、「斐伊川水系生態系ネットワークによる大型水鳥類と共に生きる流域づくり検討協議会」の愛称とシンボルマークが決定しました。投票いただきました皆さま、ありがとうございました。

愛称： 斐伊川水系 水鳥プロジェクト

シンボルマーク

愛称とシンボルマークの使用について

この愛称およびシンボルマークは

- 「斐伊川水系生態系ネットワークによる大型水鳥類と共に生きる流域づくり検討協議会」の取組みの普及啓発を目的としてつくられたものです。
- 当協議会による認可やブランドを証明するものではありません。
- 当協議会の取組みに賛するもの、あるいは趣旨に賛同する個人、団体ならば、営利・非営利を問わず使用することができます。
- 使用料は無料です。
- 使用にあたっては、事前に「使用に関する要領」および「使用マニュアル」をご一読ください。

使用の前に、必ずご一読ください

[PDF「使用に関する要領」](#)

[PDF「使用マニュアル」](#)



(使用マニュアル)

■ リンクバナーの作成



◇WEBサイト「リンクについて」ページ画面

このウェブサイトは、原則リンクフリーです。ただし、各情報においてリンクの制限等の注記がある場合はこの限りではありません。

リンクバナー

- このウェブサイトへのリンクを設定するにあたり、以下のバナー画像をご利用いただけます。画像にカーソルを合わせて右クリック→「名前を付けて画像を保存」を選択し、画像ファイルをダウンロードしてご利用ください。
- 下のバナー画像を本ウェブサイトへのリンク以外の用途に使用することは控えてください。
- バナーのリンク先は、本ウェブサイトのトップページに設定してください。

◇愛称・シンボルマークの活用状況

■ ツアーでの利用



雁が音を聴くツアー チラシ



雁が音を聴くツアー
お土産（愛称のみ）



ハクチョウウォッチングTOUR
チラシ

■ 説明資料等への掲載



お米の学校 2022年10月



奥出雲町芸術文化祭 2022年10月



中海・宍道湖・大山ブロック
経済協議会説明資料
2023年2月

■ 普及啓発グッズへの使用



缶バッジ

放水路記念館まつり（土曜の日イベント）で配布（2022/11/19）
宍道湖グリーンパーク 野鳥観察舎内に配置（2022/12/1～2023/3）
子ども探検スクール（中海コース）参加者へ配布（2022/12/4）
子ども探検スクール（宍道湖コース）参加者へ配布（2022/12/11）
米子水鳥公園に配置（2022/12/15～2023/4）
* その他、各ワーキング参加者等へ配布

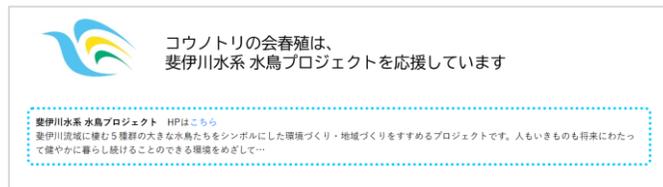


ミニリーフレット用
挟込み

ハクチョウウォッチングTOUR参加者へ配布（2023/1/21）
中海・宍道湖・大山ブロック経済協議会第2回幹事会
参加者へ配布（2023/2/1）

■ 使用申請実績

- ・「休耕田ビオトープ・土水路ビオトープ設置看板」（（公財）日本生態系協会）
- ・「WEBサイト（しまっち!）」（コウノトリの会 春殖）
- ・「斐伊川・神戸川治水事業に関する要望書」（松江市都市整備部 大橋川治水事業推進部）



「しまっち!」サイト コウノトリの会春殖 コミュニティ画面

引用: <https://shi-match.jp/pc/210/>



ビオトープ設置看板

◇斐伊川河口ツアーの催行

- ・基本プランは安価で短時間の現地集合型ツアー（夕食・温泉付はオプション）
- ・開催時期は河口近くでのマガン観察や好天が期待できる12月に4回、更に出雲観光協会により北帰行前の2月に2回追加、計6回を企画
- ・出雲観光協会スタッフがガイドとして活動できるよう事前研修を実施（2回）
- ・6回のうち4回はガイドを含め、出雲観光協会単独で運営

イベント名	雁(かり)が音(ね)を聴くツアー
日時	[第1回] 2022年12月10日(土)15:45～ [第2回] 2022年12月11日(日)15:45～ [第3回] 2022年12月17日(土)15:45～ [第4回] 2022年12月18日(日)15:45～（寒波のため中止） [第5回] 2023年 2月 4日(土)15:45～ [第6回] 2023年 2月 5日(日)15:45～ *第5回および第6回は出雲観光協会による追加開催
集合場所	道の駅 湯の川（出雲市）
参加人数	[第1回] 7名 [第2回] 5名 [第3回] 13名 [第4回] 中止（予約時13名） [第5回] 6名 [第6回] 2名
参加費（税込）	観察プラン 大人800円 小学生以下300円 観察・夕食付プラン 大人2,800円 小学生以下1,500円 ※会場：四季荘（入浴付、ツアーに因んだ料理の提供）
主催	（一社）出雲観光協会
協力	斐伊川水系生態系ネットワークによる大型水鳥と共に生きる地域づくり協議会・（公財）日本生態系協会
ツアー内容	<ul style="list-style-type: none"> ・道の駅湯の川で受付後、参加者が各自の自家用車で斐伊川河口部へ移動 ・ガイドの案内のもと河口域の野鳥を観察。その後、宍道湖湖心へ飛ぶマガンのねぐら入りを観察。 ・参加者にはツアーに因んだお土産を進呈。 ・参加者の願いごとを記した紙をハクチョウの折紙に乗せ、ハクチョウ伝説の神社「求院八幡宮」に奉納。

新たな取組

- ・ツアー運営の持続性を高めるため、参加費の段階的な増額を検討し、今年度は各プランとも2021年度より300円増額
- ・参加費増額に伴い、地元の酒蔵と和菓子店の協力のもと、ツアーに因んだお土産（大人用：酒粕、子供用：和菓子）を参加者全員に進呈
- ・地域の歴史・文化とのつながりを感じてもらおう企画として、願いごとを書いたハクチョウ折紙を参加者から預かり、ハクチョウ伝説のある「求院（ぐい）八幡宮」（斐川町）へ奉納

〔お土産〕



「富士酒造」(出雲市)の酒粕
(ツアーオリジナルパッケージ)
裏面ラベルには水鳥プロジェクト
応援メッセージを表示



「なぎら長春堂」(出雲市)の
和菓子
雁のV字編隊をイメージした
ツアーオリジナル

〔折紙の奉納〕



求院八幡宮へ奉納

〔ツアー当日の様子と参加者の感想〕



観光協会スタッフによる説明



マガンのねぐら入りを観察

- 参加者アンケートより
- * 雁の編隊を見たのは初めてで、とても良かった。
 - * 自分の住まいの近くで雁の飛行が見られることを初めて知った。
 - * また見に来たいと思える体験だった。

◇中海エリア モニターツアーの催行

- ・東出雲観光（有いやタクシー）と協議を行い、安来市のハクチョウをテーマとしたバスツアー商品化を検討する上で、実施の可能性を検証するためにモニターツアーを開催
- ・安来市内のふゆ水田んぼにねぐら入りするハクチョウの群れを観察するため、ツアー時間は午後3時頃から日没後までに設定
- ・参加者は自家用車で「のき白鳥の里」に集合し、観察場所までは乗り合わせで移動
- ・ハクチョウについてのレクチャーと観察だけでなく、マコモを使ったワークショップや米粉パンの提供など、参加者にハクチョウの魅力と共に、地域の自然や人の暮らしとの関わりを感じてもらうことを意識した構成
- ・広報は東出雲観光のSNS、斐伊川水系 水鳥プロジェクトのWEBサイト等を通じて実施



東出雲観光のSNSチラシ



<ハクチョウ米粉パン>

「しぶおんながた」(安来市)のハクチョウ型の米粉パン。ツアーの趣旨に賛同いただきツアーオリジナル商品として特別に製造いただいた。



[モニターツアー当日の様子]



のき白鳥の里に集合



ハクチョウレクチャー



マコモリースづくり



マコモリース



まこも茶とハクチョウ米粉パン



出雲織見学



採食・休憩中のハクチョウを観察



日没に合わせ、ねぐらに移動



日没に合わせ、ねぐらに移動



ねぐら入りするハクチョウを観察



のき白鳥の里で解散

イベント名	ハクチョウ ウォッチングTOUR
日時	2023年1月21日(土)14:45~18:00
集合場所	出雲織 のき白鳥の里 (安来市)
参加人数	6組11名 (大人8名・子ども3名)
参加費	無料
主催	有いやタクシー 東出雲観光
協力	斐伊川水系 水鳥プロジェクト
ツアー内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ハクチョウについてのレクチャー ・ワークショップ (マコモのリース作り) ・出雲織 機織り見学 ・ハクチョウ観察

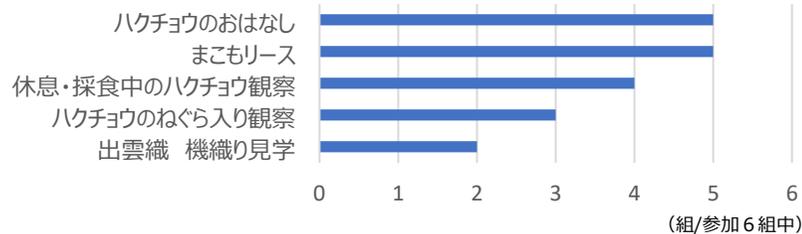
[参加者アンケートの結果 (参加6組)]

ツアーの時間設定について

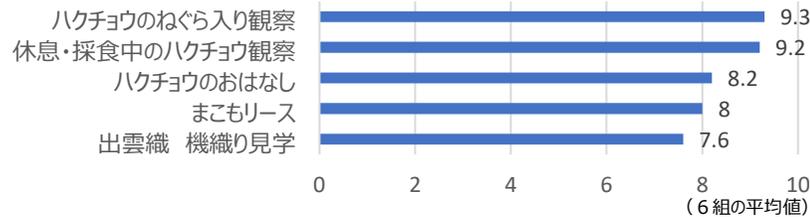
(集合時間14:45 解散時間18:00 全行程 3時間15分)

集合時間、解散時間、行程の長さのいずれも全員が「問題ない」と回答

ツアーに参加するにあたって関心を持ったコンテンツはどれですか。(複数回答可)



今回のツアーのコンテンツを友人や知人にお勧めしたいと思いませんか。0～10の11段階で点数をつけてください。



感想 (抜粋)

ハクチョウのねぐら入り

初めて見て、感動した。着水する姿が美しかった。

見ごたえがあった。

大人数での見学は難しいと考えるが今後も続けてほしい。

休息・採食中のハクチョウ観察

近くでじっくり見ることができた。

ハクチョウが採食できる環境づくりが大切だと感じた。

1人で観察するよりも、解説を聞きながらの観察は楽しかった。

ハクチョウのおはなし

ハクチョウの生態がよくわかった。

お話は少し長く感じた。

まこもリース

まこもに初めて触った。楽しかった。

短時間でできて良かった。

出雲織 機織り見学

作り方や歴史のお話が興味深かった。

機織り体験や作品見学もあると良かった。

その他

子どもも飽きずに最後まで楽しめた。

色々な体験ができてよかった。

● アンケート結果から、「ねぐら入り」は観光のコンテンツとして十分な魅力があると考えられた

[主催者 (東出雲観光) の感想・意見]

- ・ハクチョウの数は圧巻だった。
- ・ハクチョウについての説明資料は一人一人に配布できるものがあった方がよい。
- ・体験や後に残るといって、リース作りは良かった。
- ・観察時のバスの駐車位置等は十分な検討が必要。
- ・集合場所の「のき白鳥の里」を利用する場合、親子5～6組程度が限界。
- ・バスツアーの場合、バス代も含んだ参加費が必要となるが、5～6,000円の設定にするには、内容にもう一工夫が欲しい。
- ・東出雲観光は主に親子向けツアーを展開しているため、子ども向けにわかりやすく、楽しくというのがキーワードとなる。楽しく学べて、大型水鳥や斐伊川水系を知るきっかけになるようなコンテンツが作れるとよい。

◇普及啓発活動

■ 「お米の学校 2022」での説明

(既存ツアーを活用した普及啓発の取組)

イベント名：お米の学校2022 稲刈り

日時：令和4(2022)年9月11日(日) 10:00～13:00

場所：奥出雲町三所 石原里田公会堂周辺

参加人数：親子連れ31名

主催：東出雲観光・奥出雲町観光協会・アイパルテ

ツアー内容：

- ・奥出雲町の田んぼでの、田植え、草刈りに続く農業体験第3弾「稲刈り」体験バスツアー。
- ・受入れ先「農事組合法人 石原里田」(代表理事 和久利 健)
- ・昼食時に、斐伊川水系水鳥プロジェクトの紹介、斐伊川流域の大型水鳥のレクチャーを実施。



東出雲観光ツアーチラシ



■ 放水路記念館まつり(土木の日イベント)への出展

日時：令和4(2022)年11月19日(土) 9:30～13:30

場所：斐伊川放水路記念事業館

出展内容：水鳥パネル等の展示・ハクチョウ折紙イベント



■ 子ども探検スクール(わたしたちの自然と環境を守ろう！)

中海・宍道湖ってどんな鳥が住んでいる？～鳥や環境を守るための取り組みを船からみてみよう！

日時：中海コース 令和4(2022)年12月4日(日)

宍道湖コース 令和4(2022)年12月11日(日)

対象：小学4年～6年生(児童とその保護者)

主催：中海・宍道湖・大山圏域市長会

開催協力：(公財)ホシザキグリーン財団

(公財)中海水鳥国際交流基金財団

国土交通省中国地方整備局 出雲河川事務所



■ 中海・宍道湖・大山ブロック経済協議会第2回幹事会での説明

日時：令和5(2023)年2月1日(水) 10:30～11:30

場所：米子商工会議所3階 第1会議室

内容：「斐伊川水系生態系ネットワークの取組と民間事業者の皆様との連携について」



■ 「奥出雲の田んぼで生きもの観察しよう！」での説明

イベント名：田んぼの生きもの観察会

日時：令和5(2023)年5月28日(日) 10:00～13:00

場所：奥出雲町三所 石原里田公会堂周辺

参加人数：親子連れ25名

主催：農事組合法人石原里田

後援：奥出雲町

監修：(公財)日本生態系協会



・上記「お米の学校」の後、主催の農事組合法人より生きもの観察会への協力依頼を受け、観察会の中で斐伊川水系の水鳥のレクチャーを実施した。

◇WEBサイトの充実化

<https://sites.google.com/view/hiikawa-econet>



環境学習の推進

圏域の環境学習施設や団体、そこで提供されている環境学習プログラムを紹介するページ

- * 穴道湖グリーンパーク
- * 出雲市トキ公開施設（トキ学習コーナー）
- * 島根県立三瓶自然館サヒメル
- * 米子水鳥公園
- * キコニアまなびねっと

このサイトは、

- 斐伊川水系の自然の素晴らしさ、面白さを子どもたちにも知ってもらいたい
- 斐伊川水系の自然を通じて、子どもたちにふるさとへの愛着らしさを体験してほしい、とお考えになっている方々の一助になればと思います。圏域の環境学習施設や団体、および、提供している「情報」をご活用いただければ幸いです。

以下の施設・団体名をクリックすると、紹介ページに移動します。

1. 穴道湖グリーンパーク
2. 出雲市トキ公開施設（トキ学習コーナー）
3. 島根県立三瓶自然館サヒメル
4. 米子水鳥公園
5. キコニアまなびねっと

※ プログラム内容の詳細については、各施設・団体にお問い合わせください。

※ それぞれの特色を活かした自然や環境、教育に関する専門スタッフがおり、それぞれのニーズにあったプログラムの提案が可能です。お気軽にご相談ください。

なお、上記のプログラムをまとめたプログラム集は、こちらからダウンロードできます
PDF「環境学習プログラム集」(R05.06更新)



活動報告

斐伊川水系水鳥プロジェクトの活動と、プロジェクトに協力いただいている皆さまの活動について紹介するページ

斐伊川水系水鳥プロジェクトの活動報告

同プロジェクトの活動を中心に紹介しています。

プロジェクトに協力いただいているみなさまの活動報告

斐伊川水系水鳥プロジェクトにご協力いただいているみなさまの活動を紹介します。

- 2022/11/25 【報告】 出雲郡立横田小学校における、キコニアまなびねっとの和田先生の授業の様子をお伝えします



斐伊川水系水鳥プロジェクト

ホーム

生態系ネットワークとは

斐伊川水系の自然の魅力

指標となる大型水鳥について

協議会について

愛称・シンボルマーク

環境学習の推進

- 穴道湖グリーンパーク
- 出雲市トキ公開施設
- 島根県立三瓶自然館サヒメル
- 米子水鳥公園
- キコニアまなびねっと

活動報告

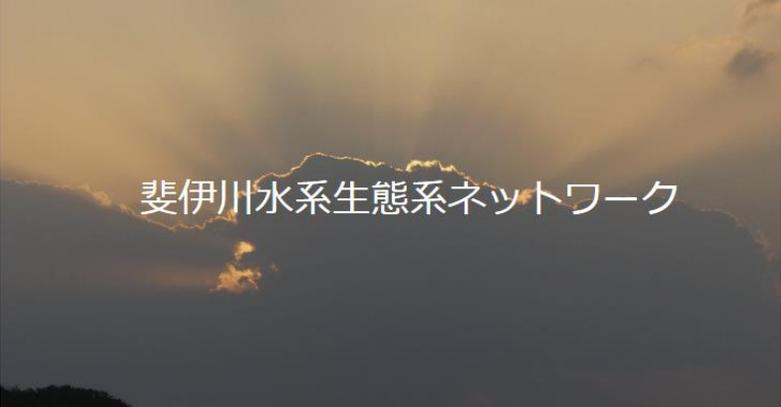
斐伊川水系水鳥プロジェクトの活動

プロジェクトに協力いただいているみなさまの活動報告

写真ギャラリー

QRコード

リンクについて



出雲平野の空に輝く光景

斐伊川流域で進められている環境づくりと地域づくりについて、取組の方向性や活動内容を紹介するサイトです。

わたしたちはこのサイトを通じて、斐伊川水系の流域に住む人や関心のある人など、たくさんの方に斐伊川水系生態系ネットワークの取組を知ってもらい、協力・参加してもらうことで、流域全体の自然環境をより良いものにしていきたいと考えています。

新着情報

2023/3/10 「本サイトへのリンクについて」を作成しました。

2023/3/10 「環境学習の推進」を作成しました。

2023/2/10 【報告】 中海・穴道湖・大山ブロック経済協議会総会にて、講演を行いました。

2023/2/9 【報告】 「ハクチョウウォッチングTOUR@安来（モニターツアー）」

2023/1/27 「鷹が音を聴くツアー」2022 第2弾 参加者募集中 → 終了しました
2/4(土)、2/5(日)開催。北に帰ってしまう前の、今季ラストチャンス。
詳しくは出雲観光協会のHPから → <https://www.izumokankou.or.jp/trip/10138>



WEBサイト



Facebook



協議会サイト



リンクバナー

今後の方向性

大型水鳥類を活用した観光振興

斐伊川河口ツアー：持続的なツアー運営を図るため、安定した集客等に向けた検討を進める。

中海ツアー：「ハクチョウのねぐら入り」をコンテンツとして、具体的なツアー造成の検討を進める。

水鳥プロジェクトに関連する商品等の開発

圏域の自治体等への提案・働きかけを視野に入れ、商品開発に関する検討を進める。

参考) 斐伊川水系 水鳥プロジェクトに関連する商品および、他の生態系ネットワーク関連事業における商品化事例

斐伊川水系 水鳥プロジェクトに関連する商品

カテゴリー	商品名等	主体	備考
観光	雁が音を聴くツアー	出雲観光協会	2020年から催行
観光	野鳥の楽園観察会ツアー	一畑トラベルサービス・出雲観光協会	2018年催行
観光	水鳥観察ツアー付き宿泊プラン	出雲観光協会	2019年販売
米	どじょう米・赤とんぼ米	ファーム宇賀荘(安来市)	2001年～栽培。有機米。どじょう米はJALしまねが、赤とんぼ米はグリーンコープが販売
米	大月谷コウノトリやすらぎ米	大東大月谷集落協定(雲南市)	雲南市ふるさと納税返礼品・量産は不可能
米	有機米	農事組合法人やない(松江市)	不耕起・有機栽培
米	湖北はくちょう米	ゆとりの里下古志ファーム13(松江市)	2009年～栽培。2021年法人閉鎖
酒	出雲富士 特別純米	富士酒造(出雲市)	環境に配慮して栽培された出雲市の佐香錦を使った純米酒
食品	酒粕	富士酒造(出雲市)	2022年度雁が音を聴くツアーお土産としてパッケージ
食品	黒糖松風(雁)	なぎら長春堂(出雲市)	2022年度雁が音を聴くツアーお土産として製造
食品	ハクチョウ米粉パン	シフォンながた(安来市)	2022年度ハクチョウモニターツアー用に製造
食品	わたりどりサブレ	ラ・クレームデ・クレーム(松江市)	2018年～2021年(閉店)

水鳥プロジェクトで取組事例のないカテゴリーにおける、他の生態系ネットワーク関連事業での商品化事例

カテゴリー	商品名等	備考
農産物	・コウノトリれんこん(鳴門市)	認証ブランドあり。関東に出荷。
農産物	・高級純金茶、コーヒー(鴻巣市)	鴻巣市は、自治体による商品開発に対する助成制度あり。
加工品	・れんこんカレー、れんこん薬膳粥(鳴門市)	鳴門市は、認証ブランドあり。
グッズ	・木エクラフト、ポロシャツ、アクセサリ他(北海道長沼町)	・北海道長沼町、鴻巣市は、自治体による商品開発に対する助成制度あり。
グッズ	・ひな人形、箸袋、ポーチ、グラス、アクセサリ他(鴻巣市)	・自治体による商品開発に対する助成制度あり。
グッズ	・ハンカチ、アクセサリ他(小山市)	・トートバッグ、カップ他(鳴門市)
その他	・飲食店メニュー(鴻巣市)	・ロゴマーク、シンボル種をモチーフにしたデザインを使用。

◆地域づくりに向けた今後の検討項目案(ワーキングの意見を踏まえたアイデア)

PR動画の製作	水鳥プロジェクト週間の設定	記念品の製作・配布	リーフレット等の製作
<ul style="list-style-type: none"> ・バスツアーの車内などで手軽に活用できる、水鳥プロジェクトの取組をまとめた紹介動画を製作。 ・YouTube動画の製作、活用。 	活動にメリハリをつけるため、プロジェクトPR期間を設定し、集中的に普及広報を実施。同期間に関連施設での関連イベントの企画も検討。	環境学習ワーキングとの連携により、カードや絵葉書、下敷き、メモ帳など、鳥と人との係わりなどが分かるようなグッズを、イベント・施設利用者等に配布することを検討。既存商品とのコラボなども検討。	大型水鳥類5種群を切り口とした、斐伊川流域の歴史的背景、上下流域の繋がり、生きものと人の暮らしとの係わりなど、包括的な情報を提供するためのリーフレット等の製作。

5. 環境学習ワーキングの開催

(1) 概要

2023年4月14日(金)に、大型水鳥を活用した環境学習の推進について意見交換を行った。

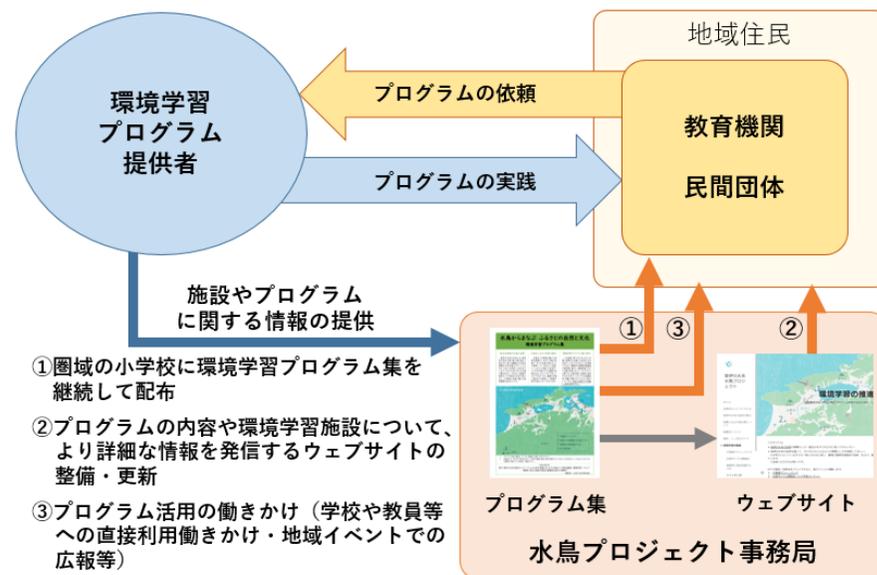
日時	2023年4月14日(金) 14:00~16:00	
場所	国土交通省 出雲河川事務所 大会議室(オンライン併用)	
参加メンバー	NPO法人 国際交流フラワー21 理事長	青木 広幸
	しまね花の郷 理事長	
	出雲市 農林水産部 農業振興課 課長補佐	大國 和久
	出雲市 農林水産部 農業振興課 副主任	錦織 大輔
	(公財)中海水鳥国際交流基金財団 常務理事兼事務局長	神谷 要
	米子水鳥公園ネイチャーセンター 館長	
	NPO法人 いずも朱鷺21 理事長	原田 孟
	奥出雲町の自然を活かす会	藤原 政明
	(公財)しまね自然と環境財団	
	島根県立三瓶自然館サヒメル 学芸課課長代理	星野 由美子
	(公財)ホシザキグリーン財団	
	ホシザキ野生生物研究所 所長	森 茂晃
キコニアまなびネット 代表		
(雲南市立西小学校 元校長)	和田 邦子	
その他	協議会参加自治体の関係部署	
	国土交通省 出雲河川事務所	
	(公財)日本生態系協会	
主な議題	①環境学習ワーキングと全体構想の短期目標について ②ウェブサイトを活用した環境学習プログラムの周知について ③活動報告	

※役職はワーキング開催時点のもの

(2) 主な議事内容

◆環境学習ワーキングと、全体構想の短期目標について

- ・短期目標「中海・宍道湖圏域、および、出雲・雲南圏域において、学校・団体等を対象に、大型水鳥類を軸とした自然環境学習を推進する体制をつくる」に関連し、魅力的なプログラムを提供できる体制(案)(下図)を提示した。
- ・その上で、プログラム提供者と教育機関等との交流を密にしていくための必要な支援策等について、意見を伺った。



◇ワーキングメンバーからの意見

- ・大型水鳥類をシンボルとした流域全体の取組について学べる共通のプログラムがあると、各施設・団体はそれを組み込みながら、自分たちのプログラムを展開しやすくなるのではないかと
- ・各施設の既存のプログラムの紹介に加えて、水鳥プロジェクト事務局からのバックアップがあることが重要。
- ・様々な教科で活用可能とは思いますが、総合的な学習、特にふるさと教育との親和性が高い。
- ・斐伊川河口域で水鳥による食害の懸念も出ている中、生態系ネットワークの取組を広げる上では、農業者の理解を深めていくことも必要。

◆ウェブサイトを活用した環境学習プログラムの周知について

- ・施設・団体が提供する環境学習プログラムを、より多くの人に知ってもらい、活用につなげるための支援策について、事務局より大きく2つの考えを提示し、意見を伺った。
 - プログラム集に代わる学校等への配布物としてのチラシの作成
 - プログラム集の提供施設の情報や活用事例等の、水鳥プロジェクトウェブサイトへの掲載。

◇ワーキングメンバーからの意見等

- ・教員向けの利用案内は施設でも作成し配布しているが、反応は決して良くない。そもそも学校の先生が手に取らないという話も聞く。
- ・学校へはそうした利用を呼び掛ける様々な団体からの呼びかけがチラシ等の形で大量に届くため、手に取って、関心を引くところに行くまでが大変。
- ・チラシを作成する前に、教員の目や耳に届くための広報はどんなものか、情報を丁寧に収集した方が良く考える。
- ・チラシは送るだけでは埋もれてしまうので、校長会などの場で取り上げてもらうなどの別のひと手間が必要。
- ・各施設の活動報告を作成したり、授業の取材や児童の感想などを発信できないか。
- ・奥出雲町の学校で行ったような水鳥プロジェクトの取材は、プログラム提供側は中々手が回らないので進めてほしい。そうした取材結果を短時間（30秒）の動画で見せる、インスタグラム等で公開するというのも有効ではないか。

◆その他

◇活動報告に対するものも含め、以下のような意見があった

- ・環境学習の推進は「学校」と「地域」の両輪でお願いしたい。子どもの気づき・変化は大人にも伝わる。
- ・学習施設に来てもらう時にネックになるのは交通手段。学校への働きかけを行う際、よく尋ねられる。マイクロバスを活用できる制度があると、学校としても利用しやすいのではないか。
- ・トキ公開施設の場合、利用する小学校や幼稚園・保育園は、遠足の一環で来ているというケースが多く、固定化傾向にある。そうした中で2022年は「トキの放鳥」がトピックとなり、新たな学校の利用や出前授業につながった。こうした話題となる事項があると、新たな利用団体の獲得につながる。

(3)環境学習に関連した活動

◇奥出雲町文化祭への参加

2022年10月に計4日、近年コウノトリの目撃情報が多く寄せられている奥出雲町にて、斐伊川水系の魅力や、生態系ネットワークの取組を知ってもらうため、パネル展示などを実施し、同町民に理解を深めてもらった。



大型水鳥のパネルを用い、生態系ネットワークの取組を紹介した。



折り紙に願いごとを書き、ハクチョウを折った。

◇環境学習プログラム実践風景の取材

2022年11月9日、キコニアまなびネットの和田氏からの情報提供を受け、学校側の了解を得て、奥出雲町立横田小学校4年生を対象とした授業風景の取材を行った。



授業風景。和田先生の解説に耳を傾けた。



実物大のタペストリーを使って、コウノトリの大きさを児童が体感した。

